

要旨

一橋大学大学院経済学研究科

宮田卓弥

本稿は学部選択及び文理選択に関して、大学生へのふりかえり調査をもとに個人の選好や期待賃金が選択行動にどのような影響を与えているかを検証した。文理選択及び国公立、私立大学の選択に関する2段階の recursive bivariate probit モデルでの推定と学部選択に関して multinomial logit モデルでの推定を行い、層化抽出法による標本の偏りを母集団割合と標本割合の比を weight として修正を行った。高校時代の科目の選好と幼少期の行動・選好は文理選択、学部選択ともに影響を与える結果を得た。また、高校時代の科目の選好を制御すると、幼少期の行動・選好の影響は媒介されて小さくなるが、それでもなお一部の理系的活動は影響を残し続ける結果となった。個人の経済状況や能力による制約の為、個人は文理選択を行う前に国公立、私立大学の選択を行い、また国公立大学を選択することが理系を選択することに影響を与えているという結果を得た。